

第3章 蔵書評価

本章では、蔵書評価の実施状況や評価者、評価内容、評価方法について調査結果をまとめる。

1 蔵書評価の実施状況

蔵書評価を行っているかどうかについて尋ねた。(図 3.1)

都道府県立図書館では、「行ったことはない。今後も予定はない」が 68.1% (32 館) で最も多く、次いで、「行ったことはないが、今後実施の予定がある、または検討中である」が 17.0% (8 館) だった。「行っている」は 8.5% (4 館) で、「かつて行ったことがあるが、現在は行っていない」の 6.4% (3 館) と合わせても、2 割に満たなかった。

市区町村立図書館でも、「行ったことはない。今後も予定はない」が 72.4% (960 館) で最も多く、次いで、「行ったことはないが、今後実施の予定がある、または検討中である」が 14.4% (191 館) だった。「行っている」は 9.9% (131 館)、「かつて行ったことがあるが、現在は行っていない」は 2.6% (34 館) だった。

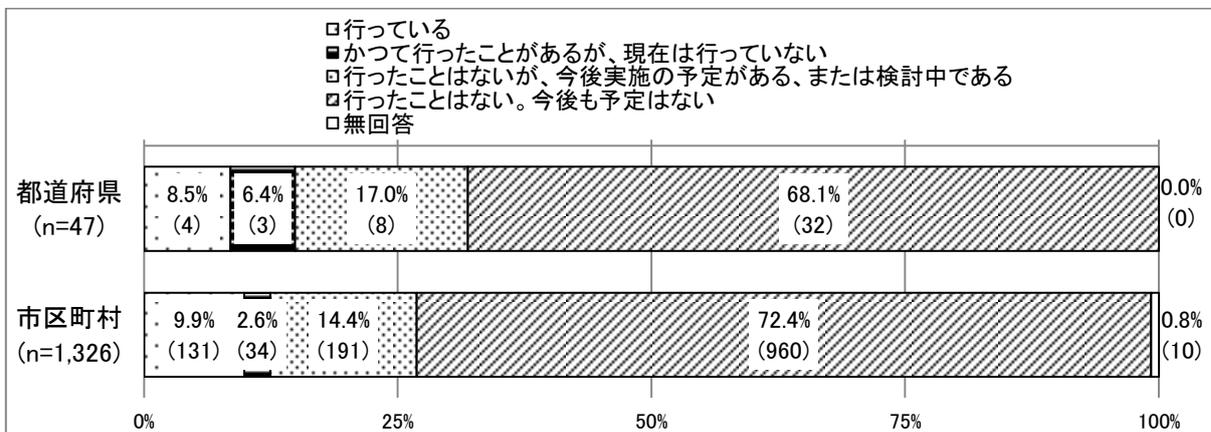


図 3.1 蔵書評価の実施状況

2 蔵書評価の頻度、評価者、評価内容、評価方法

(1) 蔵書評価の頻度

1において、蔵書評価を行っていると回答した図書館に、蔵書評価を実施する頻度について尋ねた。(図 3.2)

都道府県立図書館では、「毎年」が 50.0% (2 館)、「その他」が 50.0% (2 館) だった。

市区町村立図書館では、「毎年」が 67.9% (89 館)、「不定期」が 24.4% (32 館)、「2年に1回」は 1.5% (2 館)、「3年に1回」は 2.3% (3 館) だった。

「その他」として、以下のようなものが挙げられている。

(都道府県立図書館の例)

- ・毎年、利用者・県内図書館に満足度を聞くアンケートを実施するほか、平成 26 年度から 27 年度にかけては、大規模な調査を実施
- ・毎年 (外部の専門家)、不定期 (一般の利用者、県内市町立図書館)

(市区町村立図書館の例)

1カ月に1回／選書時／蔵書整理時／5年に1回

他に、市区町村立図書館では「不定期」として、「開架から閉架への異動時、除籍判断時にその都度行う」もあった。

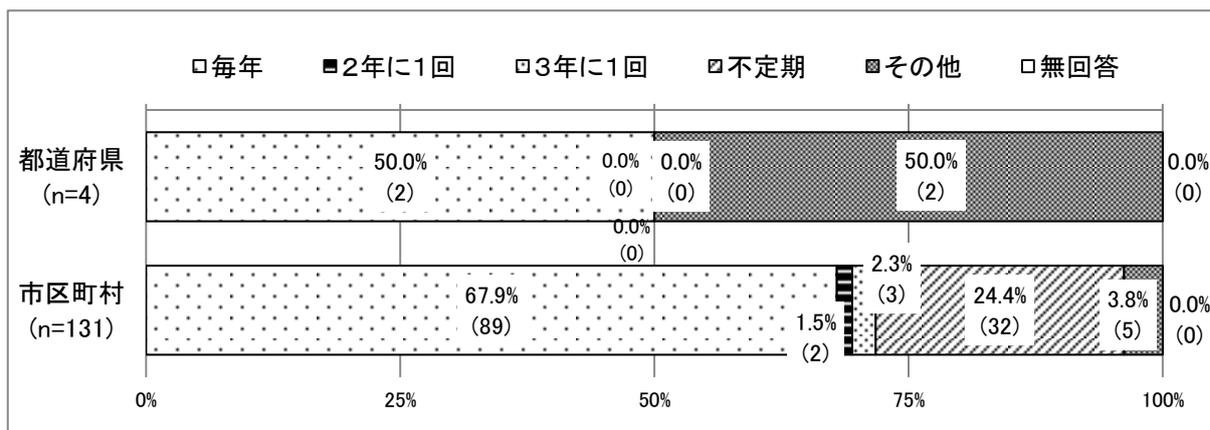


図 3.2 蔵書評価の頻度

(2) 評価者

1において、「蔵書評価を行っている」または「かつて行ったことがあるが、現在は行っていない」と回答した図書館に、蔵書評価の評価者について尋ねた。(図 3.3)

都道府県立図書館では対象が7館と少ないが、そのうち8割を超える85.7% (6館)が「外部の専門家」と回答した。次いで、「図書館による自己評価」、「一般の利用者」が、それぞれ42.9% (3館)だった。

一方、市区町村立図書館では、「図書館による自己評価」が67.9% (112館)で、最も多かった。「一般の利用者」22.4% (37館)、「教育委員会等の図書館を所管する部署」15.8% (26館)、「外部の専門家」7.3% (12館)が続き、都道府県立図書館とは異なる傾向が見られた。

「その他」として、都道府県立図書館では、「都道府県内の市区町村立図書館」が挙げられている。市区町村立図書館では、「図書館協議会」という回答が極めて多かった。他に、「学識経験者」、「学校教育関係者」、「図書館職員」などが挙げられている。

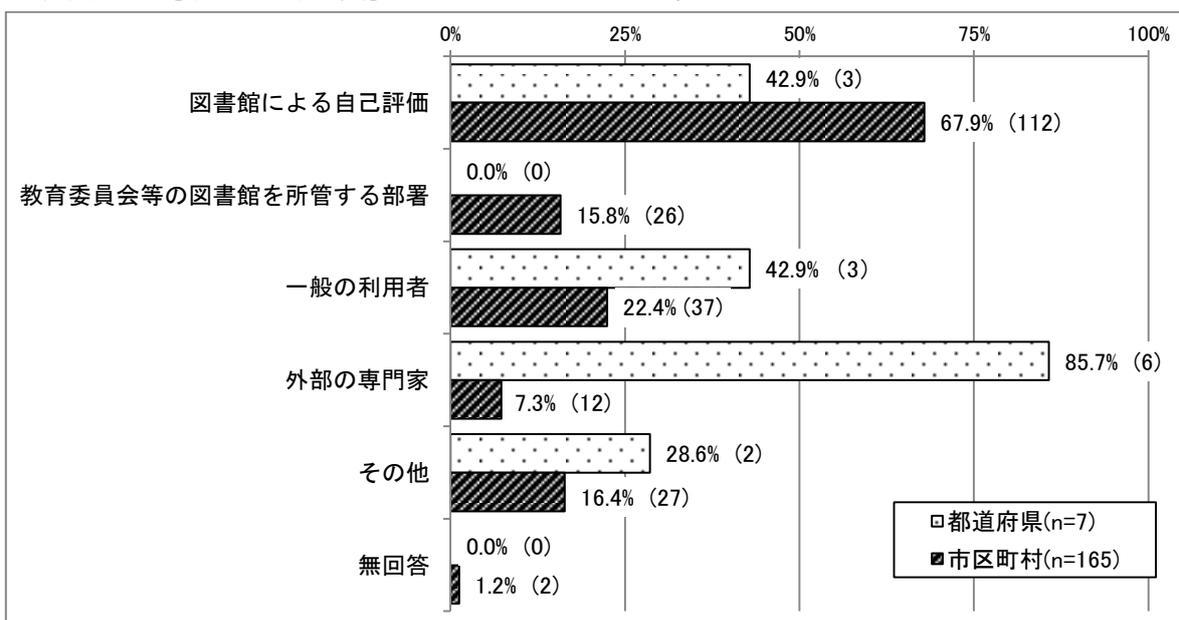


図 3.3 評価者 (複数回答可)

(3) 評価内容

2 (2) 同様、1において、「蔵書評価を行っている」または「かつて行ったことがあるが、現在は行っていない」と回答した図書館に、蔵書評価の評価内容について尋ねた。(図 3.4)

都道府県立図書館では、半数を超える 57.1% (4 館) が「特定のテーマを決めて評価している」と回答した。次いで、「蔵書全体を評価している」は 28.6% (2 館) だった。

市区町村立図書館では、「蔵書全体を評価している」が 86.7% (143 館) を占め、「特定のテーマを決めて評価している」は 9.1% (15 館) で 1 割に満たなかった。

「その他」として、都道府県立図書館では「全体を評価したものと、特定のテーマのみ評価したものがある」が挙げられている。市区町村立図書館では、「選書した際の購入分類配分」や「前年度購入図書について」が挙げられている。

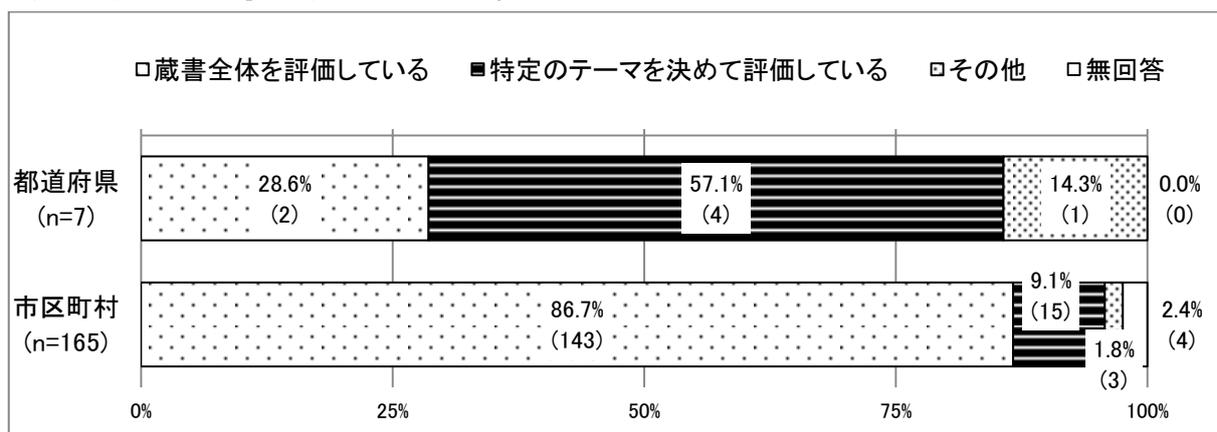


図 3.4 評価内容

(4) 評価方法

2 (2) (3) 同様、1において、「蔵書評価を行っている」または「かつて行ったことがあるが、現在は行っていない」と回答した図書館に、蔵書評価の評価方法について尋ねた。(図 3.5)

都道府県立図書館では、「館内の視察等の現地調査」が 71.4% (5 館) で、最も多かった。次いで、「利用者へのヒアリング調査」が 57.1% (4 館)、「業務統計等のデータを元にした分析」が 42.9% (3 館) だった。「外部機関との比較」と「職員へのヒアリング調査」を選択した図書館は、それぞれ 14.3% (1 館)、「その他」も 42.9% (3 館) あった。

市区町村立図書館では、「業務統計等のデータを元にした分析」が、70.3% (116 館) で最も多かった。次いで、「利用者へのヒアリング調査」が 32.7% (54 館)、「職員へのヒアリング調査」が 20.6% (34 館)、「館内の視察等の現地調査」が 19.4% (32 館)、「外部機関との比較」が 8.5% (14 館) だった。

「その他」として、以下のようなものが挙げられている。

(都道府県立図書館の例)

- ・ 該当分野の蔵書を現場で評価、不足分野は別途リストで情報提供
- ・ 都道府県内市町村立図書館へのアンケート調査

(市区町村立図書館の例)

- ・ 評価者の会議での報告に対する質疑応答
- ・ 書架整理時の返却期限票の確認

- ・職員へのヒアリングの他、自館と他図書館の所蔵状況等の検証
- ・購入図書リストを基に、各分野の専門委員による審議会を開催
- ・除籍基準に沿って判断

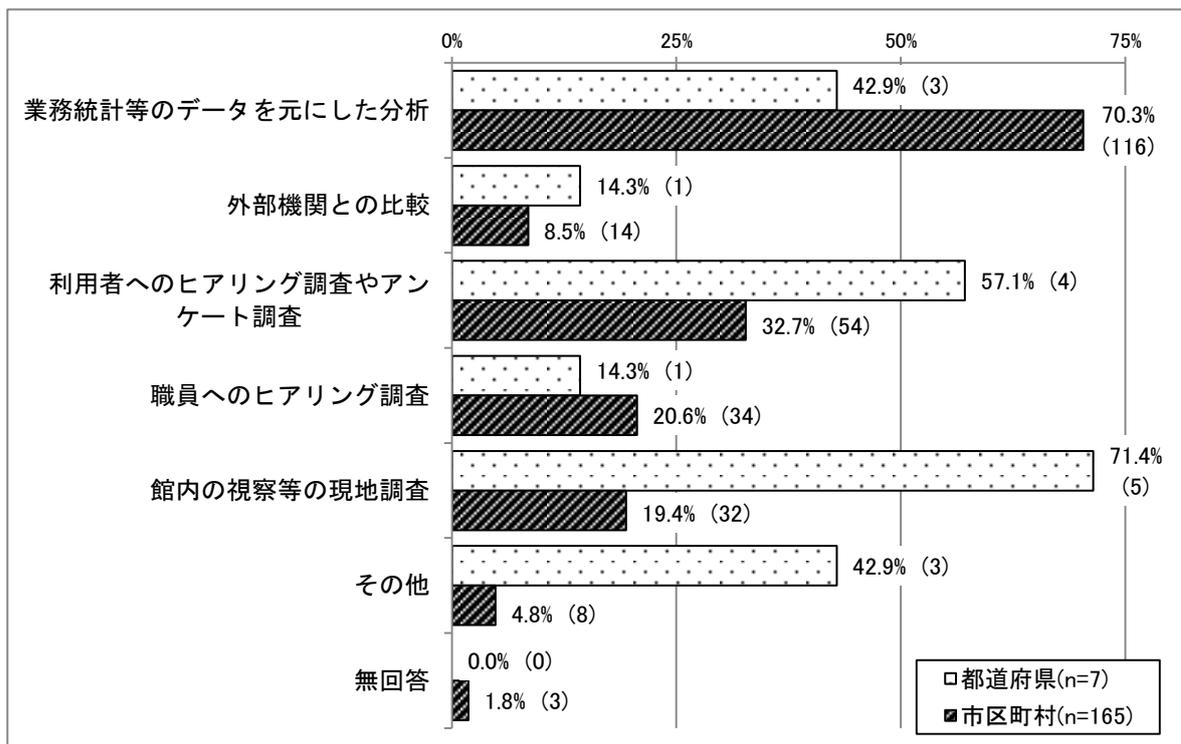


図 3.5 評価方法（複数回答可）